

# ダパグリフロジン錠 「ニプロ」を 服用される方・ご家族の方へ

このお薬は2型糖尿病の治療を目的に処方されています

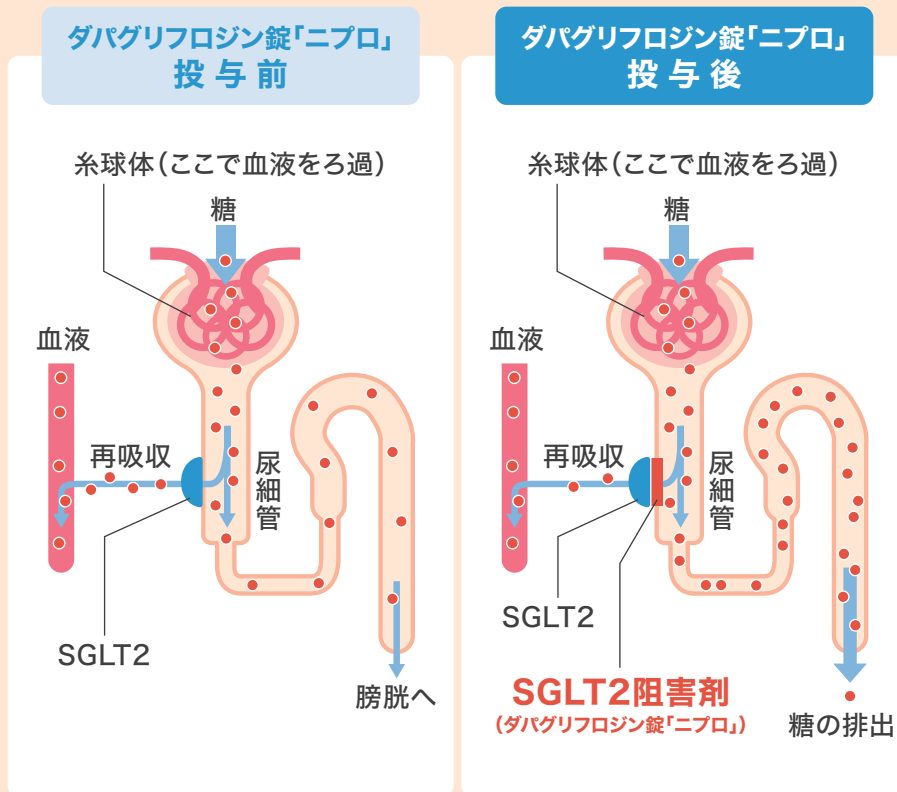


医療機関名

ダパグリフロジン錠「ニプロ」を服用する前に必ずお読みください。  
ご不明な点は処方医にご相談ください。

# ダパグリフロジン錠「ニプロ」について

ダパグリフロジン錠「ニプロ」(SGLT2阻害剤)は、腎臓にはたらき、余分な糖を尿と一緒に排泄することで血糖値を改善します。



- 服用開始早期に一過性の腎機能の低下がみられることがあります。
- このお薬を服用している間は、定期的に腎臓の検査を受けてください。
- このお薬を服用していると、尿糖検査が陽性になることがあります。医療機関で尿検査を受ける際は、ダパグリフロジン錠「ニプロ」を服用していることを医師にお伝えください。
- 一般的に糖尿病の方では発癌のリスクが高まると言われています。このお薬と発癌との因果関係は確立されていませんが、膀胱癌の治療中または既往のある方、ダパグリフロジン錠「ニプロ」の服用中に血尿を認めた方は、診察時、必ず医師に報告してください。



# 服用方法は？

1日1回、毎日決めた時間に  
飲みましょう。

- このお薬は、食事に関係なくいつでも飲むことができます。
- 医師の指示がある場合は、それに従ってください。



飲み忘れた場合、2回分(2日分)を  
一度に飲まないでください。

- 飲み忘れに気づき、次の服用時間まで半日以上ある場合は、できるだけ早く1回分を飲んでください。
- 次の服用時間まで半日未満の場合は、1回とばして、次の通常の服用時間に1回分を飲んでください。
- 誤って多く飲んだ場合は、医師または薬剤師にご相談ください。

次の状態の場合には、  
次の服用の前に、ただちに主治医に  
連絡し、指示に従ってください。

- 熱がある
- 下痢・おう吐などがある
- 食欲がない、食事が十分とれない



# 水分補給について

このお薬は、**血糖値が高いほど尿に糖が多く出て尿量が増えるため**、脱水症状があらわれることがあります。症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

## 脱水による症状



のどが渇く



めまいがする



食欲がない



疲れやすい など

## 水分補給時の注意点

- 脱水予防のため、のどの渇きを感じなくても、このお薬を服用中は**こまめに水分補給してください**。
- **ご自身の判断で水分補給を控えないでください**。
- アルコール摂取は水分補給にはなりません。
- 糖分を含む清涼飲料水での水分補給は、血糖マネジメントの悪化につながりますので避けてください。

## 特に注意が必要な方

- 血糖マネジメントが極めて不良な方
- 高齢の方
- 認知症などで、飲水・食事などの介助が必要な方
- 利尿剤を服用している方
- 暑い中で作業される方（農作業、スポーツ[指導を含む]など）
- 腎機能が低下している方（水分バランスを保つ機能が低下していることがありますので、医師の指示に従ってください）
- 飲酒される方（飲酒は医師の指示に従ってください）
- 心不全の方（水分をとりすぎると心不全が悪化することがありますので、医師の指示に従ってください）

## 特に注意が必要なとき

- 体調がすぐれないとき（発熱、下痢、おう吐などがある）
- 食事・飲み物がとれないとき

# 服用中に気をつけるべきことは？

このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

- ✓ 尿路の感染症(尿道炎、膀胱炎)
- ✓ 性器の感染症(膣カンジダ症など)

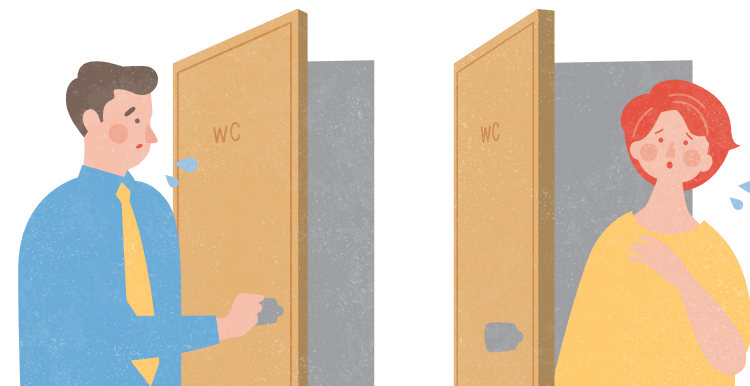
- 排尿時の痛み・灼熱感
- 陰部のかゆみ・痛み
- トイレが近い など

女性の場合 おりものにおいが強くなる、色が変わる など

このお薬の服用中は、尿中に糖が排泄されるため、尿路や性器の感染症が起こりやすくなります。

日頃から次のことに気をつけてください。

- トイレを我慢しないようにしましょう。
- 排尿・排便の後は清潔を保つようにしましょう。



下記の症状を伴う場合は、ただちに医療機関を受診してください。

- 寒気、発熱
- 脇腹・背中の痛み
- 関節・筋肉の痛み
- 陰部の圧痛・赤み・腫れなどがあり高熱を伴う場合 など

尿路・性器感染症の治療が遅れると、腎盂腎炎、会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)、敗血症などの重篤な感染症に至ることがあります。

# 服用中に気をつけるべきことは？

このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

## ✓ 低血糖症状

- 手足のふるえ、冷や汗、顔が蒼白い、動悸
  - 疲れやすい、不安感 など
- 低血糖症状は個人差があります。



低血糖とは、血液中の糖分が少なくなり過ぎた状態です。低血糖は進行すると意識を失うこともあるため、症状があらわれたら早めに対処する必要があります。



## 低血糖症状があらわれた場合は？

- 糖質を含む食品や砂糖をすぐにとりましょう。  
例) ブドウ糖や砂糖を含む飲料水など
- $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤を併用している場合は、砂糖ではなく、ブドウ糖をとってください。それでも回復がみられない場合は、**早急に**医師にご相談ください。

低血糖症状があらわれたことを診察時、医師に必ず報告してください。

また、自分で対応ができない場合に備え、低血糖についての注意は、ご家族やまわりの方にもお知らせください。

# 服用中に気をつけるべきことは？

このお薬の服用中に、次のような症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

## ✓ ケトアシドーシス\*

- 吐き気、おう吐、食欲がない
- 腹痛
- 激しいのどの渇き
- からだがだるい
- 息切れ
- 意識の低下



\* 脂肪酸がエネルギー源として使われるときに、できる分解物がケトン体という物質です。このケトン体が血液中に溜まると、血液が酸性に傾きます。その状態を「ケトアシドーシス」といいます。

ケトアシドーシスは通常、高血糖がみられますが、このお薬を服用中は、高血糖がみられなくても、これらの症状があらわれることがあります。

上記の症状があらわれた場合は、早急に医療機関を受診し、ケトン体を測定してもらってください。

## 特に注意が必要なとき

- インスリン製剤を打ち忘れたとき、減量・中止したとき
- 過度な糖質摂取制限（低炭水化物ダイエットなど）を行っているとき  
ダイエットなどを行う場合は医師の指示に従い、自己判断で過度な糖質摂取制限を行わないでください。
- 飲酒したとき
- 過度な運動を行ったとき
- 熱がある、下痢・おう吐などがある、食事がとれない場合



